

【ご参考資料】

2014年3月25日

格付会社S&Pによるブラジルの格下げについて

外貨建て格付をBBBからBBB-に引き下げ

2014年3月24日、格付会社S&P(スタンダード・アンド・プアーズ)は、ブラジルの外貨建て長期債務格付を「BBB」から「BBB-」へ、自国通貨建て長期債務格付を「A-」から「BBB+」へ、それぞれ1段階引き下げました。見通しは「安定的」としました。

今回の格下げの背景としてS&Pは、経済成長の低迷や、基礎的財政収支の目標達成が困難となっていることにより、政府債務の水準が高まっていることなどを指摘しています。

見通しについては、①政治制度が安定していること、②対外純債務水準は上昇しつつも管理可能であること、③政府債務の構成が現地通貨建てや固定レートを中心とした強固なものであることなどを挙げ、こうした要因が現在の投資適格の格付を支えるとしています。

市場は今後の政府の対応に注目

今回の格下げの発表を受けた外国為替市場の反応は限定的でした。S&Pは昨年半ばより格下げの可能性について警告していたこともあり、格下げ自体は、概ね市場に織り込まれていたとの見方があります。

見通しが安定的とされたことについて、市場ではさらなる格下げは想定されていないと捉える見方があります。今回の格下げの措置を受け、今後ブラジル政府がどのような政策対応を行なうかが注目されます。

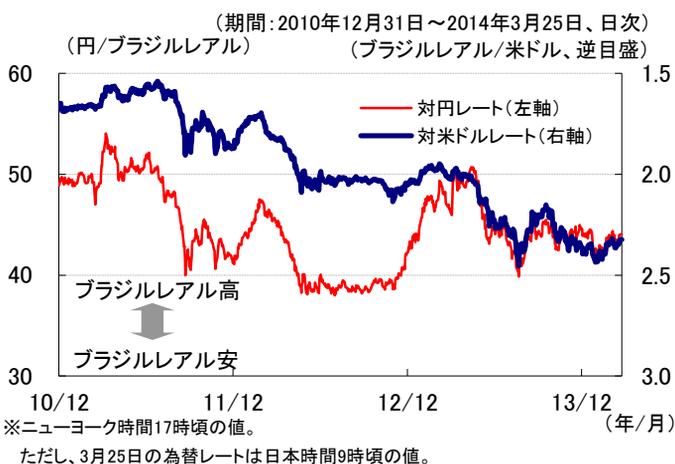
以上

【図1】ブラジルの外貨建て長期債務格付
(2014年3月24日現在)

格付会社	3月24日発表	3月24日発表以前
S&P	BBB- (見通しは「安定的」)	BBB

(参考) ムーディーズ	(参考) フィッチ
Baa2 (見通しは「安定的」)	BBB (見通しは「安定的」)

【図2】ブラジルレアルの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成